

【共通の設問】「まし」の用法を答えよ。(答え・解説は解答編)

【第1部】基礎編

Q1.

月を見ませば、心慰めなまし。

Q2.

春来たらば、花咲かまし。

Q3.

いかにかせまし、と心迷ふ。

Q4.

知らましかば、教へなまし。

Q5.

いづれの道を行かまし。

Q6.

春過ぎば、人みな嘆かまし。

Q7.

心ある人に問はましかば、答へなまし。

Q8.

いかがせましと、独り嘆く。

Q9.

風吹かば、波立たまし。

Q10.

舟あらましかば、この川をも渡らまし。

Q11.

かからむと知らましかば、行かましやは。

Q12.

文を読まましかば、ものの心も知らまし。

Q13.

かくと知らば、われも詠まましを。

Q14.

親に問はば、答へなまし。

Q15.

いかなる歌をか詠ままし。

Q16.

月の都に住まましかば、老いもせざらまし。

Q17.

我れ歌詠まば、人もめでまし。

Q18.

山に登らましやと迷ふ。

Q19.

君が心、知らましかば、なほ恋しからまし。

Q20.

いまさら知らば、くやしからまし。

【第2部】標準編

Q21.

幼き時より学問せましかば、いかに賢からまし。

Q22.

風吹かざらましかば、波静かならまし。

Q23.

いつちか行かましと思ひわづらふ。

Q24.

我れも見ば、悲しからまし。

Q25.

仏に祈らましかば、病も癒えまし。

Q26.

何か言はましと心迷ふ。

Q27.

君を見ましかば、嘆かざらまし。

Q28.

海荒れざらば、舟漕がまし。

Q29.

今宵はここに宿りやせまし。

Q30.

我れ仏の道を究めば、いかに尊からまし。

Q31.

月の都の人ならば、いま帰らまし。

Q32.

命長からましかば、いかに楽しからまし。

Q33.

雨止まば、出でなまし。

Q34.

かの人に会はましかば、思ひも晴れなまし。

Q35.

いかにして、この思ひを知らせまし。

Q36.

我れ若からましかば、何事も成さまし。

Q37.

しやせまし、せずやあらましと思ふ事は、おほやうは、せぬはよきなり。(徒然草)

Q38.

月見ましかば、人をも思ひ出でまし。

Q39.

いまさら何せまし。

Q40.

春雨降らましかば、桜散りなまし。

Q41.

我れ知らば、まづ君に語らまし。

Q42.

心安く眠らましかば、夢も見まし。

Q43.

宮にや参らましと迷ふ。

Q44.

都に住まば、なほ古き友、訪ねまし。

Q45.

この文をや焼き捨てましと、独り思ひ乱る。

Q46.

花を見ましかば、憂きことも忘れまし。

Q47.

人に問はば、道に迷はざらまし。

Q48.

いづれをか取らましと、心迷ふ。

Q49.

月清く照らましかば、夜更けて見まし。

Q50.

この花をや折らましと、立ちやすらふ。

【第3部】 応用編

Q51.

鏡に色・かたちあらましかば、うつらざらまし。(徒然草)

Q52.

雪の朝に訪はましかば、いかにをかしからまし。

Q53.

君が文を見ば、いかにうれしからまし。

Q54.

心ある人にあらましかば、これを尊しと思はまし。

Q55.

何をか形見に残さましと思ふ。

Q56.

仏に祈らば、心安からまし。

Q57.

春の野に行かましかば、若菜も摘ままし。

Q58.

いつれの日にか出で立たまし。

Q59.

道を急がましかば、宵のほどに着かまし。

Q60.

古き友、いま訪ねば、いかに喜ばまし。

Q61.

心定まらば、いかに楽しからまし。

Q62.

かかる折に、母のあらましかば、と思ふ。

Q63.

心ある人を訪ねば、いかばかり語らはまし。

Q64.

旅に出でましかば、なほ多く見まし。

Q65.

白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを（伊勢物語）

Q66.

我れ若き時にあらましかば、いかばかり学ばまし。

Q67.

出でやせましと思へど、雨なほ降る。

Q68.

月を愛でましかば、夜更けまで楽しままし。

Q69.

常に春ならば、いかにめでたからまし。

Q70.

返り事は、いかが聞こえまし。

Q71.

その夜のうちに返しせましかば、人も恨みざらまし。

Q72.

山里にや籠もらましと思ふ。

Q73.

春雨降らば、桜なほ咲かまし。

Q74.

誰にか問はましと、思ひわづらふ。

Q75.

古き友、なほ我れに語らましかば、心慰ままし。

Q76.

いつか故郷に帰らましと、思ひ暮らす。

Q77.

雲晴れば、月も見えまし。

Q78.

梅の花咲かましかば、折りて君に贈らまし。

Q79.

この笛を誰にか譲らまし。

Q80.

男の身ならば、都にも上らまし。

【第4部】入試レベル

Q81.

世の中にたえて桜のなかりせば、春の心はのどけからまし（古今和歌集）

Q82.

いつはりのなき世なりせばいかばかり人の言の葉うれしからまし（古今和歌集）

Q83.

さて、かばかりの詩を作りたらましかば、名の上がらむこともまさりなまし。(大鏡)

Q84.

いかにせん、いかにせまし。

Q85.

語らふ人のあらましかば、この月をともに見ましを。

Q86.

琴をよく習ひせば、人にも聞かせまし。

Q87.

この山に桜あらましかば、見る人も多からまし。

Q88.

やすらはで寝なましものをさ夜ふけてかたぶくまでの月を見しかな（後拾遺和歌集）

Q89.

文をや書かまし、使ひをや遣らましと、心迷ふ。

Q90.

花の盛りに来ば、なほ心ゆかまし。

Q91.

翼ありせば、君がもとへ飛び行かまし。

Q92.

供の人あらましかば、いかに心強からまし。

Q93.

これに何を書かまし。(枕草子)

Q94.

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを（古今和歌集）

Q95.

とく帰らましかば、かかる雨にも会はざらましを。

Q96.

文をだに交はさば、心通はまし。

Q97.

世を捨てせば、かく思ひ乱れざらまし。

Q98.

かの人 of これを見ましかば、涙を落とさまし。

Q99.

この憂き世を、いつくにか逃れまし。

Q100.

この花を君に見せましかば、とぞ嘆く。